

《上位計画》京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」
 →重点戦略「だれもが参加したくなる地域コミュニティ活性化戦略」
 「みんなでめざす10年後の姿」に基づき、計画の方針を策定

- 1だれもが気軽に参加できる居場所があり、安心してくらすことができている。
- 2地域の課題に主体的に取り組める多様なコミュニティができている
- 3自分たちの地域の課題を把握し、解決に取り組んでいる
- 4地域コミュニティと行政とのパートナーシップが深化している
- 5さまざまな分野の市民活動団体が地域コミュニティと連携して活動している

⇒分野別計画「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」H24.4～
 ※（27年度への目標①自治会加入率77%②NPO960件）

3年間の取組成果

○京都市地域コミュニティ活性化推進計画に基づく取組施策・事業

①～⑤について 総169施策（内、完了10事業、継続中159事業）
 ※平成26年度現在

- 1…「地域の安心安全ネットワーク形成支援」
 「共汗による地域のまちづくりや防災機能の強化」 など
- 2…「地域へ新たに転入される方への情報提供等」
 「地域活動や市民活動団体の担い手の育成」 など
- 3…「地域コミュニティ活性化に向けた支援制度」の創設
 「自主的なまちづくり活動の支援、機運醸成」 など
- 4…「区民提案・共汗型まちづくり支援事業予算」による事業の推進
 「地域コミュニティサポートセンターの設置」 など
- 5…「自治会・町内会等とNPO等のマッチングの支援」
 「認定NPO法人への移行に向けた支援」 など

客観指数・課題

○目標達成状況（26年12月末時点）※22年度比較

- ①自治会加入率69.8%（-0.2%）
- ②NPO873件（+132件）

○審議会等における議論で見えてきた課題

- ・自主防災との連携や安心安全のまちづくりを一層進め、地域コミュニティへの理解につなげる。
- ・集合住宅の自治会・町内会への加入が低い。
- ・役のなり手が高齢化する一方で、一人の方が何役も担うなどの負担が大きくなり、脱会や加入をさまたげる要因になっている。
- ・地域コミュニティの意識の向上や各種施策の認知が不十分である。
- ・若者の地域活動への参画の機会を増やす必要がある。
- ・組織間での連携不足や地縁と志縁とのマッチングを増やす必要がある。

等

○自治会・町内会へのアンケートで見えてきた課題

第1回審議会において計画の点検・見直しを行うこと、検討回数を増やして審議することの意見をいただいた。
 27年度は部会を設置し、集中的に審議を実施していく。

《検討のテーマ（案）》

- 1 集合住宅（マンション等）におけるコミュニティ活性化や自治会・町内会への加入に向けた方策の検討
- 2 地域組織（団体）のあり方及び活性化策の検討
- 3 地域コミュニティを支える各主体との連携強化

審議会等における議論や自治会・町内会アンケートを分析することにより課題を抽出し、点検・見直しの検討テーマへ

点検・見直しのスケジュール（案）

